

Title	いま押さえておくべきリスクマネジメント・コンプライアンス
Author(s)	明谷, 早映子; 狩野, 幹人; 上條, 由紀子; 山本, 智史; 研究コミュニティのリスクマネジメント・コンプライアンス研究懇談会
Citation	年次学術大会講演要旨集, 39: 1-2
Issue Date	2024-10-26
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/19637
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

S P O 1

いま押さえておくべきリスクマネジメント・コンプライアンス

オーガナイザー： 明谷 早映子（東京大学）

発表者： 狩野 幹人（三重大学），上條 由紀子（九州工業大学），山本 智史（未来工学研究所）

企画： 研究コミュニティのリスクマネジメント・コンプライアンス研究懇談会

1. はじめに

本セッションは、最新のリスクマネジメントとコンプライアンスに関する重要なテーマを取り上げ、アカデミアが直面する現代のリスクに対する理解と対策を深めることを目的とします。講演を通じて、多角的な視点からリスクを分析し、具体的な対応策を探ることを目指します。

前半の講演パートでは、各分野の専門家から、学術と安全保障をめぐる諸課題、特許出願公開にともなう技術流出に関する分析、スタートアップ創出支援及びスタートアップエコシステム構築におけるリスクマネジメントへの取組みについて報告し、後半では、パネルディスカッションと登壇者・参加者の意見交換を通じて、現代の学術・技術分野における重要な課題について議論を深めます。

2. 開催日程・プログラム

開催日程

2024年10月24日（木）18時-20時（Zoomにて開催）

プログラム

- 開会のご挨拶
東京大学大学院医学系研究科 利益相反アドバイザー室長，博士(理学)・弁護士
明谷 早映子
- 講演 1
「学術と安全保障をめぐる諸課題 ～論文データベース等を用いたリスク分析の可能性について～」
未来工学研究所 政策調査分析センター 社会課題調査分析センター 主任研究員，法務博士
山本 智史 氏
- 講演 2
「特許出願公開にともなう技術流出に関する分析 ～特許公開情報と安全保障貿易管理法令との対比を基に～」
三重大学 学長補佐（危機管理担当），研究・社会連携統括本部 准教授，知財ガバナンス部門 部門長，研究インテグリティ部門 副部門長
狩野 幹人 氏
- 講演 3
「大学の研究開発成果に基づいたスタートアップ創出支援及びスタートアップエコシステム構築におけるリスクマネジメントへの取組み ～PARKSの事例を中心に～」
九州工業大学 社会実装本部未来思考実証センター 特任教授，弁理士
上條 由紀子 氏
- パネルディスカッション・参加者との意見交換
- 閉会のご挨拶

3. 登録用リンク

<https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/meeting/register/tZcrceiprjwqE9FJl0reKsoEfGQnJmjfSJHj>

4. 各講演のタイトル・概要

講演1 山本 智史 氏

「学術と安全保障をめぐる諸課題 ～論文データベース等を用いたリスク分析の可能性について～」

近年、基礎研究分野を含む懸念国との学術交流に関する安全保障上のリスクの高まりについて、指摘されている。

かかる情勢を背景に、外国勢力のアカデミアへの影響にかかるリスクを検知し評価する試みの一つとして、欧米のシンクタンクを中心に、いわゆるオープンソース・デューディリジェンス (OSDD) につながる情報探索の取り組みが散発的になされている。しかし、そこでは主な情報源として欧米の英語論文データベースが参照されており、懸念国のハイリスク研究活動の総体を捉えられていない可能性がある。リスク評価も懸念国の研究機関のウェブサイトに掲載された表層的な研究者・機関情報に依存しており、体系的に整理された OSDD の方法論の確立を見ているわけでもない。

本報告では、こうした従来の OSDD の限界を克服すべく、懸念国自体の運用する論文データベース等の公開情報を用いたリスク検知・評価の試みについて論ずる。そもそも諜報活動を含む HUMINT 等をアカデミアが自律的に行うことは不可能であるがゆえ、OSINT 概念を援用した OSDD が注目されている。公開情報を当該分野のリスク評価に用いることの有効性と限界についても議論したい。

講演2 狩野 幹人 氏

「特許出願公開にともなう技術流出に関する分析ー特許公開情報と安全保障貿易管理法令との対比を基にー」

特許出願公開による機微技術やデュアルユース（民生用途・研究成果と軍事用途）技術の海外への流出の懸念が高まっている。2022年5月に、特許出願の非公開制度の創設が盛り込まれた経済安全保障推進法が公布され、2024年5月1日付で、特許出願の非公開制度が開始された。同制度においては、「公にすることにより国家および国民の安全を損なう事態を生じるおそれが大きい発明」、すなわち極めて機微な発明が対象になっていると考えられる。

本研究では、機微かつデュアルユースに資する技術を対象とし、そのような発明技術が特許出願公開により流出する状況の分析を目的とした。まずは、機微度の高い特許分類を抽出するための手法として、国際特許分類 (IPC) と、リスト規制対象貨物を規定している輸出貿易管理令別表第一について、それぞれの項目間の関連度を、英文のテキストマッチングによって算出する方法を構築した。

つぎに、機微度の高い分野、デュアルユース技術の代表的な IPC に着目し、出願公開情報に基づき、出願人の属性、共同出願等の出願形態等について分析をおこなった。知財や技術移転、それらのマネジメントを軸にした経済安全保障、研究セキュリティ・インテグリティの確保等についての議論にもつながることを期待したい。

講演3 上條 由紀子 氏

「大学の研究開発成果に基づいたスタートアップ創出支援及びスタートアップエコシステム構築におけるリスクマネジメントへの取り組み ～PARKSの事例を中心に～」

近年、我が国では、イノベーション創出及び新産業創を実現すべく、産官学が連携しながら、各地域におけるスタートアップエコシステム構築に向けた施策に取り組んでいる。

大学では、アカデミアの研究開発成果である技術シーズに基づき、将来的に海外市場への展開も視野に入れた社会的・経済的インパクトを与え得る大学発スタートアップの創出を実現するため、アントレプレナーシップ人材の育成、CXO人材の確保、起業支援人材の育成・確保、スタートアップ創出に関連する規則・規定等の整備、事業化推進機関との連携、GAPファンド運営・ガバナンス体制の構築等を推進している。

本発表では、大学発スタートアップ創出支援及びスタートアップエコシステム構築におけるリスクマネジメントに焦点を当て、PARKS (Platform for All regions of Kyushu & Okinawa for Startup ecosystem) の事例を中心に、兼業・利益相反リスク、知的財産に関するリスク等を含めたリスクマネジメントへの取り組みについて述べ、アカデミアが直面する現代のリスクに対する理解と対策を深める本セッションの目的につなげていきたい。

以上